

砂防だより



燃える富士（富士宮市）

| | |
|--|----|
| 年頭のご挨拶 2001年しずおかの砂防10大ニュース | 2 |
| 全国治水砂防促進大会 東海地区砂防協会支部長会議 | 3 |
| 市町村長等会員による砂防視察研修 台湾砂防事業視察 (台湾地震の土砂災害視察) | 4 |
| 市町村等砂防担当職員研修 H12 東海豪雨災害被災地視察 | 6 |
| 平成14年度 国予算内示状況 静岡県 の12月補正予算可決 | 7 |
| わがまちの砂防 (天城湯ヶ島町・富士市・金谷町・龍山村) | 10 |
| 砂防関係の主な行事 (H14.1月～5月) | 12 |

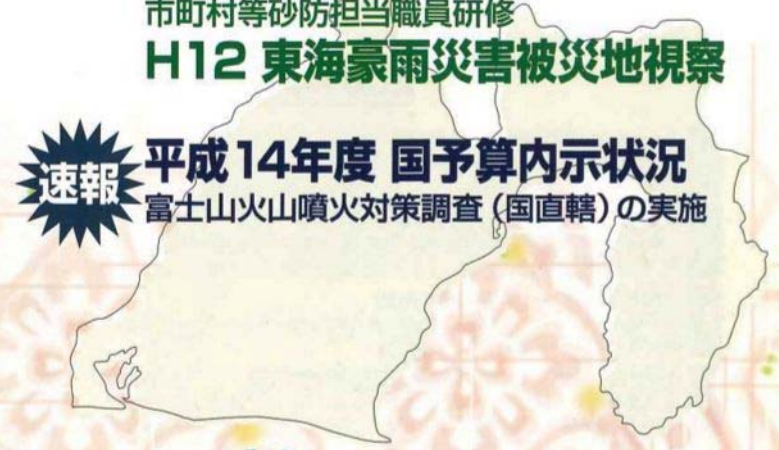
特集

市町村長等会員による砂防視察研修
台湾砂防事業視察

市町村等砂防担当職員研修
H12 東海豪雨災害被災地視察

速報

平成14年度 国予算内示状況
富士山火山噴火対策調査(国直轄)の実施



2002年は静岡の砂防100周年



全国治水砂防協会
静岡県支部

年頭のご挨拶



全国治水砂防協会 静岡県支部
支部長 齋藤 滋与史



謹んで新春のお慶びを申し上げます。

会員の皆様には、日頃から当協会支部に対する暖かいご理解と絶大なるご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

本県では、明治35年に砂防工事を始めて以来100年間砂防関係事業の着実な推進が図られるとともに、近年は富士山の噴火や東海地震に備えて地域の方々と協働した警戒避難体制の整備等のソフト施策の充実が図られるなど、総合的な土砂災害対策が進められており心強く感じております。

これからの21世紀も「真に豊かさを実感できる県民生活を実現する「快適空間しずおか」の創造」に向けて、土砂災害の無い安全な県土づくりに鋭意努めて参る所存であります。

今年は、静岡の砂防100周年という節目の年であり、年間を通じて県と協力して記念事業を実施し、砂防関係事業の普及・発展に努めて参りますので、より一層の御支援と御協力を賜りますようお願い申し上げます。年頭のご挨拶といたします。

平成14年 元旦

「砂防に何を期待するか」

土木部河川砂防総室 砂防統括監
武田 晴夫



あけましておめでとうございます。

昨年は新世紀を迎えるに当り「21世紀の静岡県砂防ビジョン」を作成し、6つの大きな目標を掲げてスタートしました。新世紀元年は厳しい予算状況下ではありましたが、「土砂災害防止法」の施行によるソフト施策の充実等により、一歩ずつ活動やシステムづくりが前進したと考えております。今後の目標達成には地域住民と直接接する各市町村との連携と協働が最も重要かつ必要であると思っておりますので、会員の皆様には今後とも御支援・御協力をお願い致します。

本年度は静岡の砂防100周年を祝して、先人の叡智と労苦を称えとともに、年間を通じて記念イベントを実施し、砂防事業の普及・発展を図ることとしておりますので、この記念行事にも御協力をお願いいたします。

昨年11月に実施した「砂防関係事業に関するアンケート調査」では、「地域で困っていること」として荒廃した森林の保全、地域格差、リユース・リサイクル、PR不足、間伐材の利用等が、「砂防に期待すること」として環境保全、自然再生・復元、災害の予知、情報の提供、ソフト施策の推進、採択要件の緩和が、「新しい発想・提案及び地域づくり」に関しては、土砂災害防止法の活用、市町村との連携、住民との協働、助成制度の充実、協働による維持管理活動等がキーワードとして提案されました。

このキーワードから、今後の砂防行政を進めていく上で地域住民や市町村からより具体的な「砂防に何を期待するか」を提案して頂き、その声に真摯に答えていくことが大切であると考えております。

会員の皆さん、県民の皆さん、砂防への声・提案をお待ちしております。

2001年 しずおかの砂防 10 大ニュース

- | | | | |
|---|---|----|--|
| 1 | 「土砂災害防止法」の施行 砂防関係4番目の新しい法律が施行され、土砂災害警戒区域等の指定に向けて基礎調査がスタートしました。 | 2 | 齋藤支部長(前静岡県知事、元建設大臣)ら新体制スタート 6月8日の砂防協会県支部総会において、齋藤支部長以下、新役員が決まり、支部の活動が活発に行われました。 |
| 3 | 市町村長等台湾砂防事業視察 1999年の集集大地震の土砂災害現場を視察し、今後の危機管理対策について研修しました。(23名参加) | 4 | 21世紀の砂防ビジョン作成し、新世紀スタート 魅力と活力のある21世紀を築いていくため、これからのしずおかの砂防事業のあり方を作成し、広く県民にPRしました。 |
| 5 | 大峠局地レーダ雨量計完成 伊豆地方の局地的豪雨を監視し、土砂災害を未然に防ぐ大峠局地レーダ雨量計が完成し、1月16日より稼働しました。 | 6 | グリーンベルト他4箇所協働事業スタート 協働による快適で安全な県土づくりを目指して、地元住民やボランティアが計画段階から参画する砂防事業を始めました。 |
| 7 | 富士山ハザードマップ作成協議会発足 低周波地震等、火山活動の活発化が懸念されるなか、国や隣接県、周辺市町村と連携した協議会が発足し、ハザードマップ作りがスタートしました。 | 8 | 桃沢川砂防環境整備事業が21世紀の「人と建設技術賞」受賞 桃沢川の自然回復を図る取組みや、森づくり・溪流づくり・維持管理への積極的な住民参加が評価され受賞しました。 |
| 9 | 静岡市に砂防・急傾斜地係誕生 土石流危険渓流、急傾斜地崩壊危険箇所が県内で最も多い静岡市に砂防・急傾斜地係が誕生しました。(全国で3番目) | 10 | 静岡県砂防事業推進協議会発足 21世紀の砂防行政について県と国が協働し、事業を円滑に推進するための協議会を発足しました。 |

●「全国治水砂防促進大会」開催される●

全国治水砂防促進大会が平成13年11月27日、東京都千代田区の砂防会館で開催されました。当日は、全国各地から1,000名を越す多数の会員が参集し、当支部からも櫻井河津町長、伊藤春野町長をはじめ総勢31名の会員にご出席をいただきました。

大会は、綿貫全国治水砂防協会長の挨拶にはじまり、扇建設大臣の祝辞を木村国土交通省大臣政務官が代読されました。続いて、会員の飯田北海道南茅部町長、江島山口県下関市長から意見発表があり、最後に、砂防関係事業の促進についての「大会決議」を行い、盛会のうちに終了しました。



大会終了後、参加された当支部会員の皆様により、地元選出国會議員19名を始め、内閣府、財務省、国土交通省の担当大臣等へ大会決議文、本県支部要望書及び東海ブロックの決議文を持って、平成14年予算の確保に向けて要望活動を行いました。

お忙しい中を出席していただきました会員の皆様には心から御礼申し上げます。

| | | | |
|--|--|---|--|
| <p>国土交通大臣 扇 千景 様</p> <p>要 望 書</p> <p>全国治水砂防協会静岡支部</p> | <p>砂防関係事業の促進に関する要望書</p> <p>砂防関係事業の促進に関する要望書</p> <p>国土交通省の御答へは、誠にありがとうございます。御答へには、国土交通省の御答へは、誠にありがとうございます。御答へには、国土交通省の御答へは、誠にありがとうございます。</p> | <p>つぎましては、これからの事業をご賛助のうえ、平成13年度予算編成に当たります。御答へは、誠にありがとうございます。御答へには、国土交通省の御答へは、誠にありがとうございます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 国土交通省の御答へ 国土交通省の御答へ 国土交通省の御答へ <p>平成13年11月27日</p> <p>全国治水砂防協会静岡支部 支部長 産 藤 園 与</p> | <p>国土交通省の御答へ</p> <p>国土交通省の御答へ</p> <p>国土交通省の御答へ</p> |
|--|--|---|--|

●平成13年度 東海地区砂防協会支部長会議開催される●

平成13年11月21日に、支部長会議が岐阜県岐阜市で開催されました。会議には岡本正男国土交通省砂防部砂防計画課長、大久保駿全国治水砂防協会理事長と各県支部長・砂防課長が出席し、静岡県からは協会支部監査役の伊藤春野町長と武田砂防統括監が出席しました。

会議では、国土交通省や協会本部から、砂防に関する近況や連絡・指示事項の報告の後、各県支部の活動状況と「砂防に何を期待するか」について意見交換を行いました。

また、経済諮問会議における民間議員からの「治水の整備テンポを遅らせるべき」との発言に対して、ブロックで緊急決議を行い土砂災害対策の重要性を訴えることとしました。

翌22日は、白鳥町の山切谷災害関連緊急砂防事業等の現場視察を行いました。



台湾砂防事業視察【台湾地震の土砂災害視察】



台湾砂防事業視察 行程図

砂防協会県支部は、平成13年10月24日～27日に台湾の砂防事業視察を実施しました。

この視察は、全国治水砂防協会本部の協力を得て実施したもので、櫻井河津町長を団長に23名が参加しました。

台湾では、1999年9月21日にマグニチュード7.3の大地震（集集地震）が発生し、死者2,300人余、全半壊52,300棟余の被害を受けました。また、今年台湾を直撃した台風により、各地で地震で緩んだ地盤が崩壊して土石流が発生しました。

今回の視察目的は、逼迫する東海地震に備え、こうした地震の被災地、土砂災害の現場、復興状況を視察し、台湾の砂防担当者との意見交換することで、今後の危機管理対策の参考にするものです。

会員には東海地震に備えて大いに役立つ研修になりました。

- 〈日程〉
- 10月24日 県内各地 → 羽田空港 → 台北 → 台中
 - 25日 行政院農業委員会水土保持局
九十九峰崩壊地
九份二山地すべり地
埔里被災現場、霧峰被災現場
 - 26日 卑豊橋被災現場、石崗ダム被災現場
火炎山土石流現場
 - 27日 台北 → 羽田空港 → 県内各地

◆参加市町村等

河津町（団長）、静岡土木事務所（副団長）、東伊豆町、南伊豆町、伊豆長岡町、土肥町、函南町、韮山町、大仁町、天城湯ヶ島町、中伊豆町、小山町、富士宮市、静岡市、清水市、富士川町、袋井市、天竜市、春野町、佐久間町、静岡大学土屋教授（視察団顧問）、台湾工業技術研究院王主任（視察団顧問）、砂防室（事務局）

国際交流—行政院農業委員会水土保持局訪問

台湾の砂防行政を司る南投県中興新村にある行政院農業委員会水土保持局を訪問し、余副局長、蘇股長他と地震災害について意見交換を行いました。

余副局長から、台湾地震直後の交通不能及び情報皆無の状況から救急活動や土砂除去を行った苦労話や今年襲来した台風により地震で緩んだ地盤で多くの土石流が発生し、その災害件数、被害金額及び工事の進捗等の説明があり、視察団員は熱心に傾聴し意見交換を行いました。



水土保持局玄関にて

台湾地震(集集地震)の被災地視察

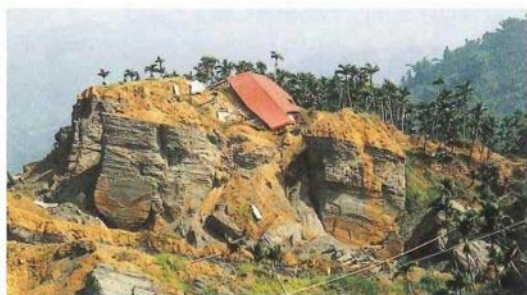
■九十九峰崩壊地

九十九峰は、台中の南東約15~20km、震源地の集集から北へ約20kmに位置しています。地震前は緑に覆われていましたが、地震により、全山にわたって急斜面の尾根部を中心に表層が崩落して禿げ山状態となりました。

今年の台風により、土石流が発生して溪流は径20cm内外の礫で埋め尽くされており、団員一同その流出土砂量の多さに驚きました。



九十九峰付近の土石流災害現場



九份二山 山頂付近の倒壊家屋

■九份二山地すべり地

九份二山地すべり地は、台中の南東約25kmに位置しています。地震により大規模な崩壊性土すべり(最大幅約1.5km、最大厚約50m)が発生し、約9,000万 m^2 の土塊が滑り落ち、約1km下流の谷を埋め、39人が犠牲となりました。

下流の谷を埋めた閉塞湖には、地元の人々がのどかに魚釣りをしている風景も見られましたが、湖から見上げた崩壊地全体のスケールの大きさに団員一同驚きました。

■霧峰(光復中学校)被災地

霧峰は、台中の南約10kmに位置している都市で、地震により、山裾に生じた断層沿いに集中して建物被害がありました。断層運動により1~3mの段差が出来て、この断層上にあった住宅、商店、小中学校等が被害を受けており、視察団は代表的な被災地である光復中学校を訪問しました。断層の位置が同校舎からグラウンドにかけて走り、断層上にある校舎は原形をとどめないほど破壊され、まだ立入禁止の状態で放置されていました。また断層線をはずれた隣接する光復小学校・幼稚園には被害は無く、通常の授業を行っていました。



断層上で破壊された光復中学校



逆断層の食い違い変位により破壊された石岡ダム

■石岡ダム被災地

石岡ダムは、台中の北東約20kmに位置し、大甲溪の河口から約25kmの距離にある堤長300m余のゲート式の重力式コンクリートの多目的ダムです。

断層がダムの右岸側を走り、地震により断層の左岸側が約10m、右岸側が約2m隆起したため、ダム本体は断層上で変位量約8mのせん断破壊を起こしました。視察時もダム本体は当時のままで断層上の地震による破壊力の大きさに驚かされました。

参加者の声

視察団団長(河津町長)
砂防協会県支部監査役 櫻井 泰次

平成13年度全国治水砂防協会静岡県支部の台湾砂防事業視察を10月24~27日の4日間の日程で行い、団員各位の御協力により全員無事元気で全日程を終えて帰国することが出来ましたことを心から感謝いたしております。また、台湾行政院農業委員会水土保持局余副局長をはじめ、協会本部や関係者の皆様方に多大なご協力とご配慮をいただいたことに厚く御礼申し上げます。

今回の台湾各地の視察で、地震による断層のずれによる被災状況、復旧の早さ、また活断層をいかに避けて構造物を建てるか等、大いに勉強になり今後の町づくりを進めるために防災面において多に参考になった視察でありました。

平成12年 東海豪雨災害被災地視察

下田市から引佐町までの県内28市町村から30名、各土木事務所から7名が参加し、2日間に渡る研修会が愛知県にて行われました。初日の講義は砂防室職員が務め、各事業の概要、土砂災害防止法における市町村の役割等を研修しました。講義内容は、通常事業の説明だけでなく、今年の災害事例のスライド等により、災害に対応する場合の県、市町村の役割など、災害発生時に役に立つ内容を中心に行いました。

現場研修では愛知県砂防課の協力を得て、平成12年の東海豪雨による被害で採択された、犬山市の「倉曾洞・災害関連緊急急傾斜事業」や旭町の「大沢川・同砂防事業」の現場や被災当時のビデオ等を見学させて頂き、大災害に対する他県の取り組みに状況にも触れる貴重な機会となりました。見学地が遠く、強行スケジュールでしたが、参加者の皆さんは熱心に見学され、良い研修になりました。

この研修は今年も引き続き開催する予定ですので、各市町村の積極的な参加をお待ちしています。

〈日 程〉

- | | |
|--------|--|
| 10月30日 | 砂防事業に関する講義 〈KKRホテル名古屋三の丸〉 |
| 11月 1日 | 現場研修〈愛知県犬山市～旭町〉 倉曾洞土砂災害現場（犬山市） 小野洞砂防公園（犬山市） 大沢川砂防事業現場（旭町） |



砂防室職員による講習



大沢川砂防事業（愛知県旭町）

参加者の声

沼津市河川課 河野上席技師

昨年東海地方を襲った豪雨が、大きな爪跡を残していった。名古屋市周辺の河川決壊による浸水被害ばかりが報道されたが、各地で山腹崩壊、土石流が発生して被害を大きくしていた。無数の雫が一筋の流れとなり、その流れや地球の引力が高低差や段差をなくそうとしている。その驚異的力に抵抗することができず、崩壊していく昨日までの景色。

倉曾洞一すぐ裏の山が民家を呑込もうと迫っている
大沢川一地盤の摩擦で「焦げ臭さ」を感じる溪谷

どこの被災地も、いまにもメリメリという音が聞こえてくるようだ。
自然の力と喧嘩してはいけない。自然の摂理を忘れることなかれという天の声が聞こえてくる。

富士土木富士宮支所 岡島技師

犬山市倉曾洞の土砂災害現場の民家の壁には、くっきりと土砂流出の痕跡が残っていた。写真を見ると、工場は全壊し、道路は完全に土砂で覆われていた。今回は、幸いにして死者は出なかったそうだが、住民の1人は泥流により100mほど流されたと言う。崩壊現場は、見たところ、特別に急な地形というわけでもない、どこにでもある普通の裏山であり、多くの住民もここが崩れるとは思ってはいなかったようであった。

しかし、このような土砂災害は、日本のように降水量が多く、山あいによくの人々が暮らす国では、いつでも、どこでも起こり得る危険性があり、また、ひとたび起こってしまうと、直接「人命」につながる恐れもある。今回の研修を通じ、砂防事業は、まさしく人の「命」を守る事業であり、今後、更に力を注いでいかななくてはならないと感じた。



平成14年度 国予算内示状況

●富士山火山噴火対策調査(国直轄)の実施

平成13年12月24日、平成14年度の国予算の内示があり、砂防関係の予算内示額は下記のとおりです。

また、平成14年度より火山噴火対策調査が新たに創設されました。これは、火山噴火に起因する土砂災害に迅速かつ的確に対応するため、火山活動による社会的影響の大きい火山のうち、火山麓が二県以上にまたがる火山等を対象に、火山噴火対策の実施に関する調査を行うもので、本県では富士山が対象となります。

河川局所管予算内示額(事業費)

(単位:億円)

| 事 項 | 前年度予算額 (A) | 14年度内示額 (B) | 対前年度比 (B/A) | 備 考 |
|----------------------------|---------------|----------------|----------------|--|
| 砂防事業 (地すべり事業を含む) | 3,306 | 2,900 | 0.88 | 1. 本表は砂防関連事業のみ抜粋 2. 本表は、特定治水及び道路関係社会資本を含んでいない |
| 急傾斜地崩壊対策等事業 (雪崩対策事業を含む) | 954 | 845 | 0.89 | |
| 砂防関連事業 計 | 4,260 | 3,745 | 0.88 | |

県の12月補正予算可決

緊急地域雇用創出特別交付金を活用して砂防関係3事業21,400千円を実施

総額3,500億円規模の国の補正予算(第1次)が11月16日に成立した事を受け、緊急地域雇用創出特別交付金事業を活用して、本県では12月議会で3億7,000万円、20事業を追加補正しました。

砂防関係では下記3事業が決定され、積極的な雇用の確保と防災施設の調査、パトロール等を実施します。

● [グリーンベルト環境保全事業]

地元住民やボランティアとの協働による災害に強い樹林帯の形成を目指している「静岡市・清水市都市山麓グリーンベルト」において、危険な急斜面を対象に、4年間で竹の伐採や間伐等の作業を行い、ボランティア活動が実施できる環境を作ります。

● [砂防堰堤環境調査事業]

県が設置した約1,200箇所の砂防堰堤について、堆積土砂量等を2年間で調査し、今後の除石やリユース、リサイクル等に向けた対策の基礎資料とします。また、産業廃棄物の不法投棄状況や崩壊状況、枯損木の調査等を行い、地域の環境パトロールも併せて行います。

● [急傾斜地パトロール事業費]

がけ崩れから住民を守るため、県が管理する急傾斜地崩壊防止施設(約550箇所)の点検パトロールを実施し、逼迫する東海地震に備えます。

| | グリーンベルト 環境保全事業 | 砂防堰堤環境 調査事業 | 急傾斜地 パトロール 事業費 | 計 |
|-------------|-------------------|----------------|----------------------|--------|
| 事業費(千円) | 5,000 | 11,500 | 4,900 | 21,400 |
| のべ雇用人口(人・日) | 238 | 400 | 184 | 822 |

● 自主防災活動推進大会及び「火山フォーラム in 御殿場」が開催される ●



平成13年11月23日に、平成13年度自主防災活動推進大会が、御殿場市民会館において開催されました。会場ではパネル展が開かれ、自主防災関係や火山関係のパネルとともに砂防関係のパネルも展示され、自主防災関係者へ土砂災害防止をアピールしました。

大会後、伊藤和明氏をコーディネーターに長田御殿場市長や静岡大学の小山教授などをパネラーとして、「火山フォーラム in 御殿場」が開催され、富士山ハザードマップ作成等に関して活発な議論が行われ、聴衆も熱心に聞き入っていました。

● 国土交通省 岡本砂防計画課長 富士山視察 ●

平成13年10月25日に、富士山に関する砂防事業の今後の展開を検討するため、静岡・山梨合同の現地視察が行われました。国土交通省からは、岡本課長、下山火山対策係長、花岡富士砂防工事事務所長他が参加し、本県からは山口土木部長、本橋砂防室長他が参加しました。

視察はヘリコプターから富士山全体を鳥瞰し、火山噴出物等の土砂移動の痕跡や大沢崩れ源頭部対策を確認し、その後、砂防施設の視察が行われました。



左より山口土木部長、岡本砂防計画課長、花岡富士砂防工事事務所長

● 第5回「緑のゼミナール」でグリーンベルト協働作業を発表 ●



パネルディスカッションの様子

平成13年10月31日に、第5回「緑のゼミナール」が砂防会館で開催され、本県からは、ボランティアによる森づくり「清水みどり情報局(S-GIT)」の片平成行氏が、ボランティアの立場でパネルディスカッションに参加しました。

ゼミナールは森林についての基調講演と、森づくりの実践者のパネルディスカッションで構成され、工学的講習会とは違った貴重な勉強の機会でした。

来年は県内市町村からも多数参加して頂き、災害に強い森づくりを進めていきたいと考えています。

● 平成13年度「東海地区地すべり・急傾斜地担当者会議」本県で開催 ●

平成13年10月25日から26日にわたり、本県において、東海4県の地すべり・急傾斜事業の担当者会議を開催しました。

初日は、各県の提出した議題についての討議、翌日は、平成10年度に災害関連緊急地すべり対策事業を実施した「半済地区(菊川町)」等の現場見学を行い、会議、現場を通じて活発な意見交換が交わされました。また、来賓として国土交通省砂防計画課、保全課、中部地方整備局河川部地域河川課から4名の出席をいただき、平成14年度概算要求や砂防関係新規・重点事項等についても意見交換を行いました。

今回の会議で得た意見や情報を、今後の業務に活用していきたいと思っております。



半済地すべり事業の視察

● 富士山ハザードマップ 第3回活用部会が開催される ●

富士山ハザードマップの作成については、7月11日に「富士山ハザードマップ作成協議会」が設置されて以来、基図部会と活用部会がそれぞれ月1回のペースで精力的に開催されています。

去る11月20日には東京で第3回活用部会が開催され、砂防室もオブザーバーとして参加しました。

噴火等火山活動と防災行動を念頭に置いたハザードマップの試作に取り組むなどの検討が進められています。

● 静岡県議会「治山・砂防事業推進議員連盟」総会開催される ●

水と豊かな生活環境の創造と安心して暮らせる社会基盤の整備を目標に砂防事業の推進を目指す、静岡県議会治山・砂防事業推進議員連盟の平成13年度総会が、12月7日、73名の会員のうち53名が出席し、県庁特別会議室で開催されました。

総会では、宮田会長の挨拶に引き続き、規約の改正、役員の変更、平成14年の事業計画等の議案の審議が行われ、新役員及び各議案の承認と、土砂災害対策としての治山・砂防事業の推進が確認されました。なお当日、武田砂防統括監が本県の砂防事業の現状と課題について説明しました。

新役員 会長 宮田 行正
副会長 伊東伊佐美、竹内 清、滝田 光男
事務局長 佃 弘巳
幹事 野澤 義雄、谷 卓宜 (敬称略)



総会の様子

● 「暮らしと土木展」で土砂災害防止をPR ●



平成13年10月18日に、「第14回暮らしと土木展」が、青葉シンボルロードにて開催されました。本県をはじめ、国土交通省、日本道路公団、県建設業協会などが、土木事業の概要や建設工事の最新技術について展示を行いました。

砂防室では、パネルや写真とともに鋼製透過型堰堤の模型等の展示し、土砂災害防止のPRを行いました。また、最近の話題として土砂災害防止法についてもパネルにより紹介しました。あいにくの雨でしたが、たくさんの方が熱心に見学していました。

● ～国際交流～ 台湾行政院農業委員会水土保持局が口坂本砂防現場視察 ●

平成13年12月5日に、台湾行政院農業委員会水土保持局工程組の蘇国良股長他2名の砂防研修員が県内の砂防施設の視察に訪れました。

この視察は、(社)全国治水砂防協会の主催により、12月4日から7日までの4日間で神奈川県、静岡県、岐阜県の砂防施設を視察するもので、本県では口坂本地区の土砂災害情報提供システム、木和田川砂防学習ゾーン、静岡県土砂災害雨量情報システムなどを視察しました。調査団の皆さんは、特に土石流災害の予知と対策に関心が高く、砂防室職員と熱心な意見交換をすることが出来ました。



サイボス室にて水土保持局のみなさんと

わがまちの砂防

天城湯ヶ島町

天城湯ヶ島町 建設課長 堀江正身

伊豆半島の中央に位置するわが町は、温泉に恵まれる一方で、鮎のメッカとしても有名な「狩野川」の最上流部に位置し、豊かな水や森林の資源を流域に提供しています。

太平洋に面する地域の河川は、そのほとんどが南向きに流れておりますが、狩野川は北行しています。伊豆半島の地形から言えば当然ですが、自然の摂理に逆らって流れる川は、時に大災害をもたらすとも言われています。

事実、暴れ川と異名をとるこの川は昭和33年、台風22号により未曾有の被害を受けました。その翌年から「狩野川直轄砂防事業」が始まり、わが町でも砂防堰堤や長野川の床固工事などが行われ、年々台風による災害に強くなっています。



長野川砂防見学会（平成13年6月）



アユ釣りのメッカとしても有名な狩野川上流部

最近では、同じ狩野川水系の大場川の災害の時にも、同量の降雨があったものの、土石流や河川の氾濫もなく安堵いたしております。

とはいえ、狩野川砂防の町内の進捗は、40年経過した今でも50%をわずかに超えたのみであり、気の遠くなる歳月が整備に必要であることを痛感いたします。

現在、県の急傾斜地崩壊対策事業と町の治山事業を並行して進めており、町民の命と財産を守るために全力で取り組んでいます。

富士市

富士市 河川課長 遠藤昭蔵

富士市は、世界に名だたる霊峰富士を北に有し、その有姿は市民の誇りであり財産であり心のよりどころでもあります。

また、南には駿河湾、東に愛鷹山、西に富士川などの豊かな自然環境を生かしつつ、多様な産業の集積により、着実な歩みをもって文化と産業のまちづくりを進めてまいりました。

都市化の進展に伴い住宅の建築もしだいに平野部から丘陵部に移行していく傾向となりました。そうしたなか市民が安全で安心して暮らせるまちづくりを積極的に進めております。

さて、富士市の砂防事業は、国の直轄砂防事業、県の土石流対策事業・急傾斜地崩壊対策事業等が施工されております。国や県



須津第一砂防堰堤



岩本山公園からの富士山

をはじめとする関係各位のご努力によりこれらの事業も順調に推移しており関係住民ともども感謝の意を表すところであります。

今後とも関係機関のみなさまの変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

この場をお借りして少し富士市の観光PRをさせていただきます。早春の岩本山の梅園や広見公園の桜、かりがね堤の桜、天照教の桜、原田・吉永地区等の湧水群、こどもの国等いずれも富士山を背景に素晴らしい景色となります。是非お出かけ下さい。

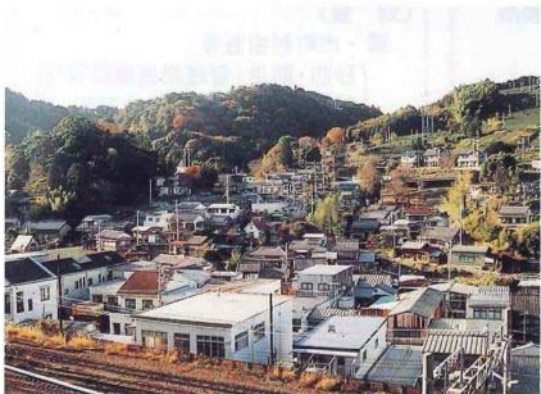


金谷町 金谷町 建設課長 杉本享信

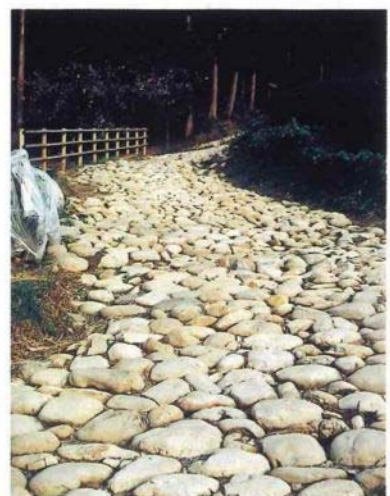
私達の町は、古くから東海道のお茶どころとして栄えてきました。大井川の流に沿った豊かな緑と水と太陽の恵みは、お茶づくりに適した環境をもたらしてくれるとともに、私達の豊かな心と健やかな心身を培ってくれています。

また、江戸時代には東海道の金谷宿として大いに栄え、当時の様々な文物が川越し文化として伝っています。本年、新たに県指定文化財に指定されました東海道菊川坂石畳は、道路底面に沿って楕円形の山石が長さ161mに渡り、牧の原台地から菊川の里(間の宿)の間に密に敷き詰められ、江戸時代後期の原状を良好に残しています。

石畳のあります日本一の大茶園を誇る牧の原台地の外縁一帯には、多くの地すべり地形が認められ、町内には国土交通省所管で3地区、農林水産省で7地区、林野庁で2地区と傾斜地は、ほとんどが地すべり防止区域の指定を受け、町民の生命財産を守り、環境を保全するために様々な対策を関係機関のご尽力により進めていただいております。



隣村地すべり防止区域



東海道菊川坂 石畳

特に国土交通省所管の地すべり防止区域は、全国的にも数が少ない第1種低層住居専用地域と、第2種中高層住居専用地域の用途指定がされた地すべり区域です。

昭和42年に始まった金谷町の地すべり対策事業は、県を始めとする関係各位の幾多のご努力により順調に推移しており、関係住民ともども感謝の意を表すところであります。今後とも変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

龍山村 龍山村 建設課長 大石正人

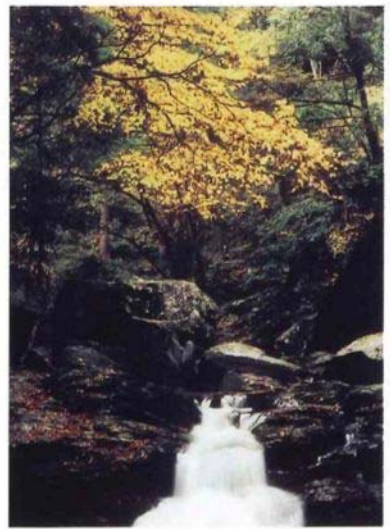
龍山村は、県の北西部、天竜川水系の中下流域に位置し、村のほぼ中央を天竜川が北から南に流れ、東西約10km、南北約15.5km、総面積70.23km²のうち山林が93%を占める林業地帯です。

明治43年に村が誕生してから21世紀の幕開けと同時に100周年を迎え、「人々が安らぎ、ほっとする自然・暮らし・時に出会える村“ホットピアたつやま”」をコンセプトに、ひとりひとりが地域を愛し、互いに支え合う村づくりを進めながら、地域の資源を守り、育て、美しさと豊かさを誇れる人づくりと、魅力ある水と森の郷づくりを進めています。

龍山村は、天竜奥三河国定公園に位置し、紅葉の白倉郷、秋葉ダム湖畔の千本桜等の自然景観に恵まれ、平成11年にはトロン温泉「やすらぎの湯」もオープンし、多くの人々が訪れています。



戸倉谷沢 砂防堰堤



紅葉の白倉峽

一方、険しい地形、崩壊し易い地質のため土砂崩れ、洪水等に度々みまわれしており、砂防指定地9箇所、地すべり危険箇所6箇所、急傾斜地崩壊危険箇所28(指定区域8)箇所となっております。砂防事業も関係者のご努力により進展しておりますが、まだまだ危険箇所も多く、地域住民が安全で、安心して豊かな生活を送ることができるよう関係各位の一層のご支援をお願いします。

おしらせコーナー

～静岡の砂防100周年記念～ 第1回 砂防講演会

- 〈日 時〉
平成14年1月24日(木)
14:00～16:30
- 〈会 場〉
もくせい会館 1F 富士ホール
(静岡市鷹匠3-6-1)
- 〈内 容〉
- これからの砂防事業における危機管理への取り組みについて
講師：国土交通省砂防計画課 南砂防計画調整官 (予定)
 - 台湾大地震と土砂災害について (東海地震に備えて)
講師：静岡大学農学部 土屋 教授 (予定)
- 〈主 催〉
静岡県土木部
全国治水砂防協会静岡県支部
- 〈問い合わせ先〉
静岡県土木部砂防室
tel 054-221-3042

富士山火山防災 シンポジウム

～宝永の大噴火と災害から学ぶ～

- 〈日 時〉
平成14年2月22日(金)
10:00～14:45
- 〈会 場〉
御殿場市市民文化会館 大ホール
- 〈内 容〉
- 第1部 基調講演
静岡大学 小山 真人 教授(火山学)
学習院大学 松尾美恵子 教授(日本近世史) (予定)
 - 第2部 シンポジウム
コーディネーター NHK解説委員 山崎 登 氏
- 〈主 催〉
国土交通省富士砂防工事事務所
静岡県、山梨県、御殿場市
- 〈共 催〉
神奈川県
- 〈協 賛〉
全国治水砂防協会静岡県支部
- 〈問い合わせ先〉
国土交通省富士砂防工事事務所
tel 0544-27-5221

土砂災害防止法等 実務担当者説明会

- 〈日 時〉
平成14年1月21日(月)
13:30～16:00
- 〈会 場〉
県庁西館4F 第1会議室
- 〈内 容〉
- 「土砂災害防止法における県・市町村の役割」
 - 「警戒避難体制における土砂災害情報相互通報システム整備事業の展開」
- 〈対 象〉
県・市町村担当者
(砂防・防災・管理担当職員等を対象とした実務説明会です)
- 〈問い合わせ先〉
静岡県土木部砂防室
tel 054-221-3042

砂防関係事業に関する アンケート調査について(お礼)

協会支部会員の皆様にご協力いただきましたアンケートについては65市町村から回答を頂きました。(回答率87.8%)

●アンケートでは

1. 地域で困っていること
2. 砂防の役割・砂防に期待すること
3. 砂防の諸制度の活用
4. 従来の枠を越えた発想、提案
5. 地域づくりにどう生かせるか

その他、協会活動について多数のご意見を頂き、ありがとうございました。この回答につきまして現在とりまとめを行っていますが、今後、貴重なご意見をもとに、新しい事業展開を進めてまいります。

編・集・後・記

新年明けましておめでとうございます。
2002年は“しずおかの砂防100周年”です。明治35年の静岡市内の安倍川支川仙俣川で「砂防法」に基づく砂防工事に着手以来100年目となる節目の年に、記念イベント・出版等々の仕事させていただくことを大変光栄に感じております。また、各行事実施の際には、会員をはじめ、多くの皆様に御支援、御協力をお願いいたします。

「砂防だより」もより充実した誌面づくりを目指して参りますので、引続きご愛読いただきますようお願いいたします。
本年も皆様にとって良い年となりますよう、お祈り申し上げます。
全国治水砂防協会静岡県支部 宮城島朋代

表紙写真：燃える富士

撮影：石田敏之(富士宮市)
※砂防協会では表紙に掲載する静岡県内の写真を募集しております！
皆さんの御協力をお願い申し上げます。
詳しくは下記宛にお問い合わせ下さい。

第136号 発行日：平成14年1月1日

編集・発行：全国治水砂防協会静岡県支部

〒420-8601 静岡市追手町9番6号

静岡県土木部河川砂防総室砂防室内

TEL (054)221-3042 FAX (054)221-3564

E-mail : sabo@hq.pref.shizuoka.jp

平成14年 1-5月

砂防関係の 主な行事

■支部行事予定

- 1月24日(木) 砂防講演会
- 1月30日(水) 静岡県砂防ボランティア協会総会
- 2月22日(金) 富士山火山防災シンポジウム
- 5月31日(金) 静岡県支部 通常総会(予定)

■協会本部行事予定

- 5月22日(水) 平成14年度 通常総会

砂防だより

R30

古紙配合率80%再生紙を使用しています